

里山、木育の森づくり

竜の森林保全の会

三重県

〈木育の森作り作業から〉

・ 森林伐採作業

数十年程放置されていた里山林を整備するため、入口を確保したりと、さまざまな準備が必要であった。



2017/6/24 実施

伐採作業は常に事故防止の徹底を心掛けた。



2017/6/6 実施



2017/7/11 実施



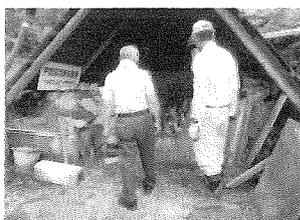
2017/8/22 実施

〈炭焼き作業から〉

・ 炭窯に伐採木を立てる作業・火入れ・火を止めるタイミング等について、会員の中の炭焼き職人が知恵を活かして取り組んだ。



2017/7/8 実施



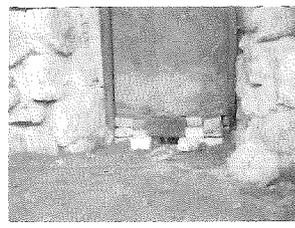
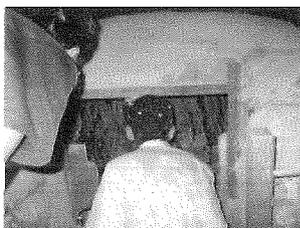
2017/7/15 実施



2017/7/15 撮影



2017/8/5 実施（窯出し前）



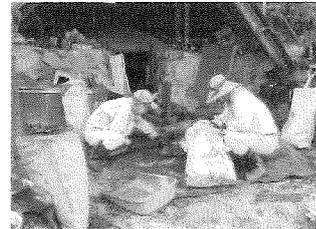
2017/7/15 撮影



2017/8/5 炭焼き講師説明



2017/8/5 子供木炭集め



2017/8/26 木炭取り出し

〈ビートルズベッド作り〉

- ・ 落葉集めにいなべ市大安庁舎の皆さんにも掃除の際にごみ袋に集めて頂き、多くの市民の皆様にお世話になった。ビートルズベッドは隣の三重県民の森（菰野町）に設置されている物を参考にして制作した。（記録写真消失）



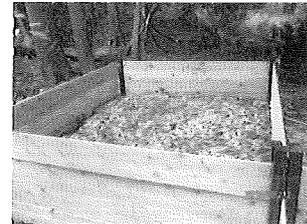
2017/11/23 落ち葉集め



2017/11/25 落葉集め



- ・ ビートルズベッドのそばに容器を準備し、会員所有腐葉土に生息しているカブトムシの幼虫を取り出して運び入れた。



ビートルズベッド

2018/6/5 実施

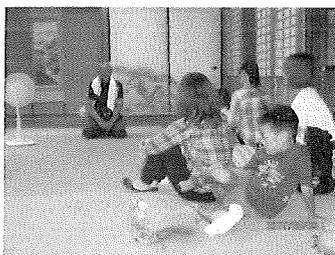
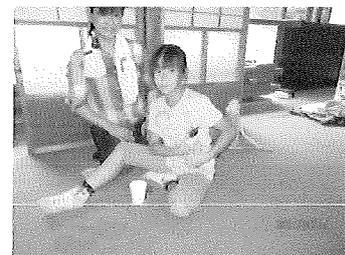
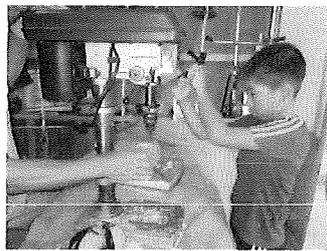
〈イベントをふりかえる〉

☆夏休み 家族で楽しむ 里山の集い IN 宇賀溪 ※別紙お知らせ参照

期日：平成 29 年 8 月 5 日

参加者：17 名（大 10 人、小 7 人）

- ・ 天候があまり良くなかったものの、炭火で焼いたマスの塩焼きは皆さん好評であった。木工では筆立てを講師の指導でけがもなく完成し満足そうであった。又、本物のカブトムシをつかむのが初めての子供もいてうれしそうであった。木炭がどのようにして作られるのか？興味関心を持って、お話を聞き、軍手で実物にふれることによって、思い出の体験となった。



☆秋の里山 スローライフの集い IN 宇賀溪 ※別紙お知らせ参照

～紅葉めぐり・郷土の味覚堪能～

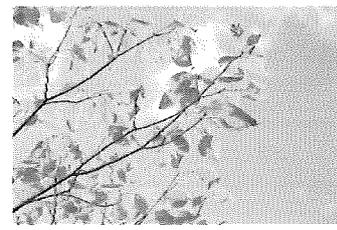
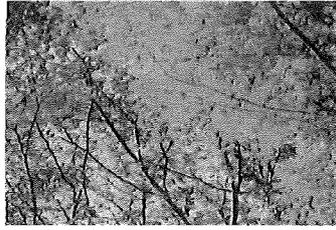
期日：平成 29 年 11 月 23 日

参加者：21 名（大 9 人、小 12 人）

【事業概要】

1 砂山散策

秋の紅葉を楽しむと共に、自然観察員の高橋さんによる樹木説明で里山である宇賀溪の紅葉について学んだ。とりわけ、シロモジ・タカノツメにみられる黄葉が印象に残った。途中で「木育の森」に設置するビートルズベッド用の落ち葉集めも行った。



2 ワークショップ

篠だけを用いて親子竹笛作りに取り組んだ。参加した中学生はドレミの音を綺麗に吹いて喜んでいて。その後、地元で盆栽をしてみえる岡さん指導により、炭鉢に植えた松の盆栽について、育て方を学んだ。



3 おはぎを味わう

いなべ市北勢町の餅つきクラブ（ボランティア）の皆さん 8 名により、地元のモチ米を使っておはぎを作って頂いた。「どうやって作るのですか？」と質問しながら、美味しそうに頬張る方も見えて、好評であった。

若い登山者も下山で立ち寄り、おはぎを手にとって、大喜びで食していた。

～観察会～ 高一 木村 風賀

普段、山に登ることは少ない。久しぶりに山を歩き、拾った葉っぱの木の实について、先生に質問し、名前を知った。質問できる先生と一緒に行動してくれるのは楽しい。知らないことを知っていき、もっと自然を大切にしていきたい。ヒュッテの隣の会場では、木のボールプールで小さい子からお年寄りまで一緒にくつろいでいて、お昼には、おはぎを頂き、美味しかった。廊下では篠だけを用いて竹笛作りに参加した。自分だけで工作するのは違って、穴をあける角度など、わからない所はおじさんの手作業を見て、学べたので良かった。また、こういう普段出来ないことを皆で出来るといいなと思う。ありがとうございました。

4 里山コンサート



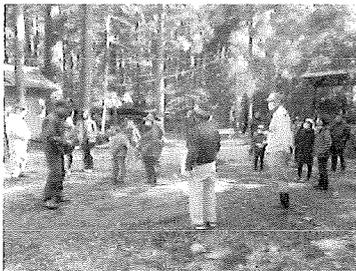
お年寄りから幼児まで、多くの皆さんが耳を澄まして、生の音楽に感動のひと時を過ごせた。クラシック音楽に初めてであった方もバイオリンの音色にうっとりさせられていた。最後に、「アンコール！」手拍子の中、「故郷」を演奏に合わせて、合唱して終了した。

☆木育の森早春親子植菌体験 ※別紙ご案内参照

期日：平成 30 年 3 月 10 日

参加者：18 名（大 8 人、小 10 人）

- ・木育の森近くの石部神社に集合して、参加された皆さんそれぞれに参拝した。その後、自然観察員の高橋さんによる周辺一帯の森の姿について学び、数百メートル先の木育の森に向かって、森林の中を通りぬけた。



・シイタケ菌、ヒラタケ菌の植菌体験

～キノコの菌うちのこと～ いなべ市立石樽小 6 年 森梗生

菌うち体験で森へいくのは楽しみでした。ぼくは山に行くのが好きだから、楽しかったです。初めに、インパクトでコナラの丸い木に穴をあけるのをやりました。インパクトで穴をあけるのはとても楽しくて、つい、あけすぎました。次に、インパクトであけた穴に、ハンマーでシイタケの菌をうちこみました。その時に、気をつけたのは、自分の手を打たないことと、打つ時にきれいに打つことを気をつけました。次に、シメジの菌うちをしました。シメジの菌うちは、まず、けや木の丸太を二つ用意しました。そのあとに、シメジの菌を丸太に手でぬりました。シメジの菌はべとべととしていて、気持ち悪かったです。最後に、ぼくはキノコが好きじゃないけど、もし家で取れたら、お母さんにおいしい料理をしてもらい、頑張ってお食べたいです。

☆木育の森 樹木、草花移植活動

～アラカシ、カエデ、シャガ、ツリフネソウ～

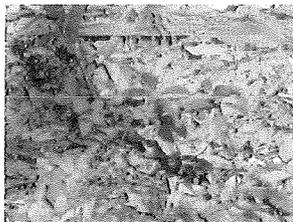
期日：平成 30 年 4 月 7 日

参加者：10 名（大 3 人、小 7 人）

- ・小雨がぱらつく中、親子で傘をさしての作業を熱心に取り組んだ。アラカシは昨年に地元のドングリを拾って育てたものを仮植えした。シャガ、ツリフネソウは近くに自生しているものを移植した。カエデは地元の家の木から生まれたものを植えた。



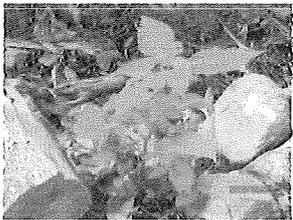
今のところ、移植した全ての植物が活着している。



アラカシ



シャガ



ツリフネソウ



カエデ

～森作りをして楽しかったこと～ いなべ市立石樽小 3年水谷 太河
しいたけのきんをうつ穴を作るときに、穴をどこにあけれをばいいかをさいしょは、わからなかったけど、やってると、だんだんなれてきて、穴をあけるのが楽しくなりました。しいたけははじめて作るの、とても楽しみでした。やる前はどんな木にどんなきんをうつかが楽しみでした。じっさいにやってみると、思ったいじょうに楽しかったです。

ひらたけづくりは、しいたけとちがってきんを木ではさむかが、なぞでした。三ヶ月ぐらいたって木を見ると、きんをはさんだ所だけでなく上下にきんがありました。またそれもなぞでした。ひらたけ作りはなぞはあるけど、きんを木ではさむことが楽しかったです。

木のなえをいっばいうえました。とくに、ツリフネソウをいっばいうえました。ツリフネソウのなえはポットにはいつているのをうえかえしました。その日は雨だったけど、穴がさきにあけてあったので、あまりたいへんではありませんでした。あまり植えられない木のなえをうえれて楽しかったです。大きくなったのを見てみたいです。

～しいたけの菌のうえつけ～ いなべ市立藤原小 6年木村 成寿

ぼくは、しいたけ菌のうえつけをやるのは久しぶりでした。

その中で、一番印象に残ったことは、菌をうつのと、コナラの木に穴をあけるのです。穴をあける器械を初めて使ったけど、楽しく穴をあけることができたので、良かったです。菌をうつのは、かんたんだけど、真っすぐにうたないと、うまくうたないので、そこをがんばりました。

分からないことは、スタッフの人が教えてくれたので分かりやすかったです。

しいたけと、あとしめじをうえ、その二つがでてくるのがとても楽しみです。出てきたら、おいしく食べたいです。また来年もししいたけなどをうつ時があったら行きたいです。

〈木育の森環境整備作業から〉

☆道路整備

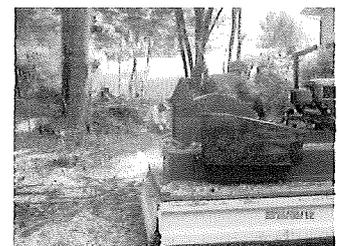
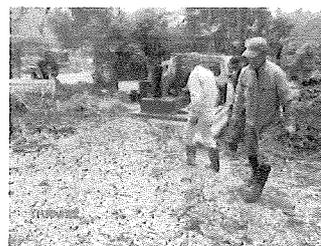
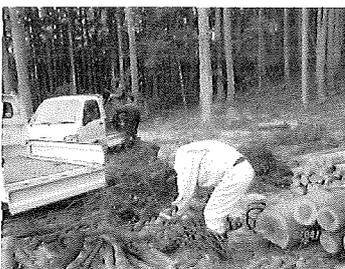
三重県より河川敷工事による残土の砂利を提供してもらい、木育の森入り口付近を整備した。



・作業実施日：平成 29 年 6 月 24 日、平成 30 年 5 月 15 日、5 月 22 日

☆チップー作業

粉碎機を借用して伐採樹木の枝葉を処理した。できた物を近くの方に提供し、畑に敷き詰め野菜栽培に利用してもらった。



・作業実施日：平成 30 年 4 月 17 日、5 月 12 日

〈平成 29 年度木育の森森作り活動を終えて〉

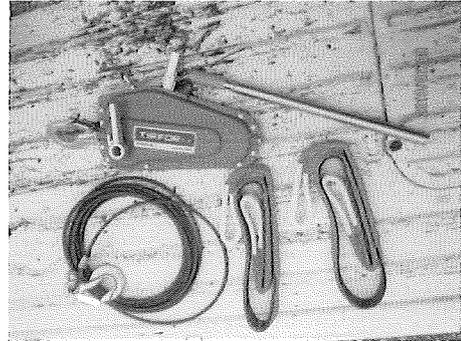
私たちの活動目的である、里山の森林保全活動を通して、多様な恵みをもたらしてくれる森林や里山を市民の共通財産として再生を進めるという理念を念頭に昨年度の歩みをふりかえりたい。

【間伐作業】

伐採対象林は数十年放置されていて、作業は大変であった。径が 20 cm～30 cm の杉が大半であった。まず、安全確保を最優先に事故防止に気をつけて作業を行った。

幸い無事故で活動できて喜んでいる。一本の木を倒すことは先人達が行った、鋸を

使用するのではなくて、チェーンソーという器具使うのだから、簡単にできると思う方も見えるかもしれないが、結構難しいし、危険を伴うものである。木にうけ口を作って伐倒方向を定めて、伐っても思うように倒れず、掛かり木に倒れることが何度もあった。会議の中で、作業方法を会員で話し合っ、作業の効率を高めるのに、チルフォールを年度末に購入することとした。伐採作業に利用できて喜んでいる。ドングリ拾いは少し行い、苗床で育てている。尚、森林の再生に関わる私たちにとって、森林の学習は重要であることから、今年度は林業に携わられた、平野さんより学ぶ機会を設けた。※別紙資料参照



【ビートルズベッド】

三重県民の森に設置されている物を参考に会員が手作りで制作した。枝葉処理した木材チップや落ち葉を市民の皆さんにも協力頂き集めてもらい、腐葉土作りを行なった。しかし、カブトムシが産卵できる状態には時間が必要である。そのため、会員所有の腐葉土（幼虫がいる）をビートルズベッドのそばに容器を置いて置いた。7月初旬にはカブトムシの成虫が生まれる予定である。

【間伐材の利用】

伐採樹木である、杉を用いて木炭を生産した。火をつける時、窯入れした杉材が湿っていていつもよりも火入れが長引いたため、購入したブロワを用いて、空気を送って火入れを行った。今後もブロワを落ち葉集めの他にいろいろなことに有効利用していきたい。

木工制作としては「丸太コンロ兼椅子」を作った。



「丸太コンロ兼椅子」はスウエーデントーチとも呼ばれているものである。

径が20 cm程の丸太を40 cmの高さに切断して、皮をむき、写真のようにチェーンソーで4方向から切断した。そして、平常は椅子として利用できるようにペーパーをかけた。非常時には燃料・暖房に使用できるので普及を図りたい。

〈今後の活動について〉

・『木育の森』作りに取り組むにあたり、いつも指導頂いている自然観察員の高橋さんより、「里山再生事業案」（別紙資料）を提起頂き、会員で議論を重ねて作業を進めてきた。放置されていた里山に入り、私たちが間伐作業を進めていて、近くに住む地元の方より、嬉しいことを聞かせてもらった。それは対象林一帯に生えているツバキがいつも、花を咲かせることがないのに、今年は日が当たって咲いている。小鳥もやってきて、鳴き声が聞こえる。とのことである。まだまだ、活動は始めたばかりで、事業案の目標到達には時間と努力が必要であるが、小学校3年生のMさんが「大きくなったのを見てみたい。」と書いてくれている。このような期待に応えられるように会員がボランティア精神を念頭に励みたい。

・豊かな自然を守る

私たちの住む近くの里山は鈴鹿国定公園宇賀溪を抱えている。この里山の奥には竜ヶ岳が位置していて、今年は特にシロヤシオが羊の群れをなすような姿をみせてくれたこともあって、多くの登山者が訪れた。シャクナゲの花も見事というしかない。とりわけ、咲き始めの色合いは実に感動的である。



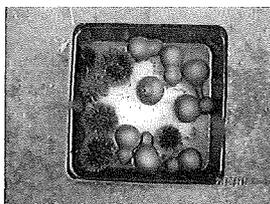
宇賀溪の里山には数々の樹木や草花が生息している。自然豊かな宝庫が消失しないように、多くの皆様と連携していきたい。

・間伐材を多目的に利用する

主として、木炭を生産して、地元である宇賀溪観光協会に販売し、バーベキュー用に使ってもらっている。又、薪割も行い、キャンプ場で使ってもらっている。今年は枝葉をチップperを用いて処理を試みた。粉碎機の借用代がかさむのが課題であるが、今後も取り入れる方向で考えたい。木工制作では前述の「丸太コンロ兼椅子」を制作した。

・炭焼きを活かす

炭といえば、「燃料」という用途しか思い浮かばないのが多くの人の常識であろう。しかし、我が家では生ごみを入れているケースの底に手のこぶし大くらいの炭を2ヶ入れている。週に1・2回ゴミ収集用の袋にケースから取り出しているが、悪臭を殆ど感じない。玄関の下駄箱の上にも置いている。消臭効果は確かである。たかが木炭と軽く考えるのではなく、生活の中に活かすことをめざしたい。



以前に焼いた「いがぐり」と「ひょうたん」です。